

和歌山県 話題事項
令和 7 年 4 月 8 日
資料提供済
令和 7 年 4 月 3 日



「和歌山製油所エリアの今後の方向性について 中間とりまとめ」 更新版の公表について

令和 4 年 1 月、ENEOS（株）が和歌山製油所の機能を停止すると発表して以降、和歌山県は、同社、経済産業省、海南市および有田市とともに「和歌山製油所の今後の在り方に関する検討会」を発足させ、和歌山製油所エリアの将来について、様々な議論、検討を重ねてまいりました。

検討会の中間報告として、令和 5 年 9 月に「和歌山製油所エリアの今後の方向性について 中間とりまとめ」を公表したところですが、このたび、別添のとおり中間とりまとめを更新しましたので、お知らせいたします。

（連絡先）

商工労働部 成長産業推進課

担 当：上野山、大原

電 話：073-441-2373

和歌山製油所エリアの今後の方向性について

中間とりまとめ 更新版

2025年4月3日

和歌山製油所エリアの今後の在り方に関する検討会

（経済産業省（資源エネルギー庁・近畿経済産業局）、和歌山県、海南市、有田市、ENEOS株式会社）

1. ENEOS和歌山製油所について

- ・和歌山製油所は、1941年の操業開始以来、80年以上の長きにわたり、立地地域と密接な関わりを持ち、地域経済や地域の雇用にとって重要な役割を果たしてきました。
- ・一方、国内石油製品の需要減少や世界的に高まる脱炭素の機運等の様々な環境変化により、2023年10月をもって和歌山製油所は、その機能を停止しました。
- ・こうした中、本検討会では、和歌山製油所エリアが、今後も、魅力と活力ある地域であり続けるために、官民の垣根を越えて、アイデアを持ち寄り、議論・検討を重ねてきました。
- ・この結果、2023年9月には、和歌山製油所エリアは石油基地からカーボンニュートラルを先導するGX^{*1}モデル地区を目指す、**未来環境供給基地**として「**カーボンニュートラル社会の実現**」と「**地域経済への貢献**」を図るべく、新しい一歩を踏み出すこととしました。
- ・2023年10月には和歌山製造所として生まれ変わり、未来環境供給基地の実現に向けて、官民協力しつつ、邁進しているところです。

*1：GX（グリーントランスフォーメーション）：
化石燃料をできるだけ使わず、クリーンなエネルギーを活用していくための変革やその実現に向けた活動。



2. 今後進むべき方向性

カーボンニュートラル社会の実現

2015年パリ協定【日本の排出削減目標（2021年4月更新）】

- ・カーボンニュートラルの実現に向けて、「2050年温室効果ガス実質ゼロ」、「2030年温室効果ガス46%削減、さらに50%の高みを目指す」

地球温暖化対策計画（閣議決定）令和7年2月

- ・次期NDCについては、1.5℃目標に整合的で野心的な目標として、2035年度、2040年度において、温室効果ガスを2013年度からそれぞれ60%、73%削減することを目指す
- ・次期NDC達成に向け、エネルギー基本計画及びGX2040ビジョンと一体的に対策・施策を実施

第7次エネルギー基本計画（閣議決定）令和7年2月

【2050年カーボンニュートラル実現を見据え、2040年に向けた対応】

- ・水素等は、幅広い分野での活用が期待されるカーボンニュートラル実現に向けた鍵となるエネルギー
- ・技術開発により競争力を磨くとともに、世界市場の拡大を見据えて先行的な企業の設備投資を促していく。バイオ燃料についても導入を推進

GX2040ビジョン（閣議決定）令和7年2月

- ・合成燃料の商用化まではバイオ燃料の導入拡大を推進。合成燃料、SAF*2等の導入拡大に向けて必要な制度等を整備。GI基金等を活用し実用化・低コスト化に向けた研究開発を支援

わかやま資源自立経済ビジョン 令和5年9月

- ・地域の再生資源を活かした産業創出、資源循環ネットワークの構築

わかやま成長産業開拓ビジョン 令和6年4月

- ・和歌山の将来を担う成長産業の提示、和歌山県がGX実現先進県ならびに脱炭素社会先進県となることを目指すための行動指針

地域経済への貢献

和歌山県の方針

和歌山県議会定例会 令和5年2月

- ・全国に先駆けて、カーボンニュートラル実現に向けた地域の脱炭素事業転換のモデル、脱炭素社会先進県を目指す
- ・企業誘致には、投資をしたい、しようと思う企業に魅力を感じてもらえるように全力を尽くす

和歌山県議会定例会 令和5年9月

- ・「未来環境供給基地」が実現すれば、脱炭素先進県として和歌山が全国に先駆けてカーボンニュートラル社会の実現に向けたモデルとなる

海南市の方針 令和4年2月

海南市議会定例会

- ・雇用を維持しつつ、地域経済の発展、地域振興につながる方策について、和歌山県、有田市と連携して取り組む

有田市の方針 令和7年3月

第5次有田市長期総合計画後期基本計画

- ・GXの推進を担い未来へのチャレンジを行う企業の誘致に取り組む。地域の雇用創出やさらなる成長につながる産業や企業を誘致する
- ・未来へつながる新たなチャレンジが行われるまちであり続ける



*2 SAF（Sustainable aviation fuel）：持続可能な航空燃料（廃食油からの再生航空燃料など）のこと。CO2削減に貢献。

3. グランドデザイン（コンセプト）

解決すべき課題とキーワード

カーボンニュートラル社会の実現

GX、SAF、クリーンエネルギー

地域経済への貢献

企業誘致、新規産業



未来環境供給基地

～石油基地からカーボンニュートラルを先導するGXモデル地区へ～

我が国の産業・エネルギー構造が、化石燃料からカーボンニュートラル実現に向けた次世代エネルギーへの転換を図るなか、GXを体現するモデル地区として次世代エネルギーや製品等の供給基地となることを目指します。

GXの推進

GXを推進し、カーボンニュートラルの実現に貢献する環境先進エリアを目指します。

次世代エネルギーの供給

国内におけるSAFの供給拠点となるよう取組を進めます。また、再生可能エネルギーのほか、様々なクリーンエネルギーの供給を目指します。

新規産業の創出

GXの推進を担い、脱炭素化に向けた地域との協働に共感する企業を誘致し、地域のさらなる成長につなげます。

4. グランドデザイン（マップ）

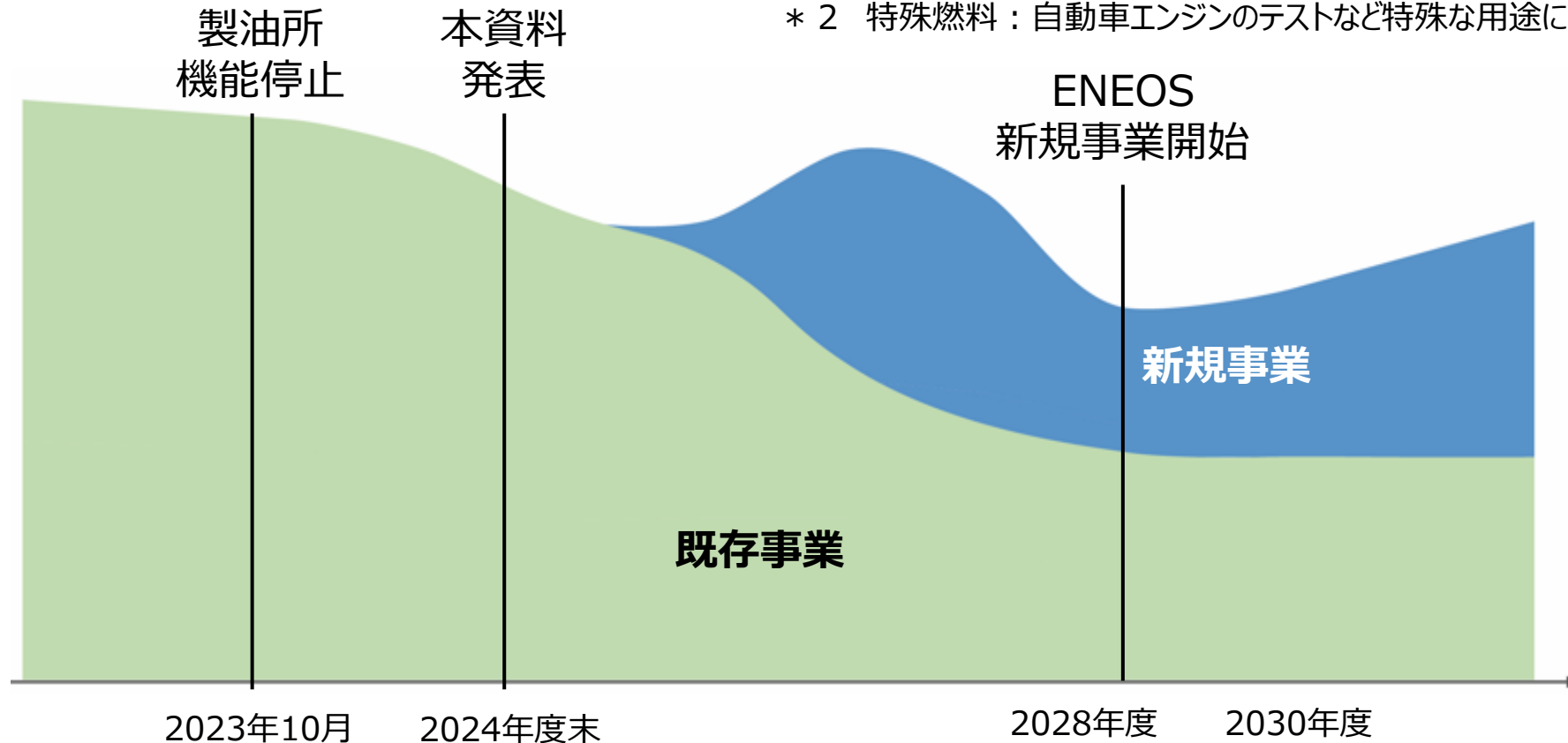


※当該資料の内容は現時点のものであり、検討の進捗によって変更する場合があります。

5. 雇用規模イメージ

- 現在も無害化作業・工事*¹、特殊燃料*²の製造・出荷等で雇用を維持しておりますが、SAF事業の実現により、建設関連の工事、事業開始後のオペレーション等の雇用が生じる見込みです。
- また、現時点で未定ですが、将来的にSAF以外の新規事業や企業誘致が実現すれば、更なる雇用の創出が期待されます。

- * 1 無害化作業・工事：設備・タンク内の油・薬品等の危険物・有害物を除去し、安全に撤去工事を行うための事前作業及び工事
- * 2 特殊燃料：自動車エンジンのテストなど特殊な用途に用いられる燃料



※このグラフは雇用規模のイメージを示したものであり、具体的な人数を積算したものではありません。

6. 検討会のこれまでの取り組み

- この土地が ENEOS の SAF製造の拠点となったことを軸にして、本検討会として、これまでの3年の間に、以下の取り組みを実行・推進してきました。

グランドデザインの作成

・「未来環境供給基地」

ENEOS SAF 事業検討

- SAF 製造設備検討
- 廃食油回収スキームの構築

その他のENEOS事業検討

- 特殊燃料製造の継続決定と投資判断
- 潤滑油出荷の1年間継続（終了）
- 原油タンクの有効活用検討（継続）
- 次世代エネルギー事業検討（継続）

雇用の確保

- 無害化工事・撤去工事による雇用
- 県・市による求人情報の提供

企業誘致活動

- 誘致活動
- タンク撤去と更地造成工事
- 企業誘致用パンフレットの作製・配布

行政による地域活性化

- わかやま成長産業開拓ビジョンの策定とビジョンに基づく取組
- エンジン01 in 和歌山有田
- 竹田地区の用途地域変更と土地の整理

官民協力関係の構築

- 家庭用使用済み天ぷら油回収実証事業
- 補助金サポート:「持続可能な航空燃料(SAF)の製造・供給体制構築支援事業」に採択

7. 今後の取り組みについて

グランドデザインに沿った土地活用と企業誘致を進め、和歌山製油所エリアを活力と魅力ある地域に発展させてゆくために、県、市、ENEOSは、今後も、次の取り組みを協力して実施します。また、2040年に向けた政府の新たな枠組みの中で、この地域が未来環境供給基地として、引き続きGXを先導する役割を担っていきます。

1. SAFを軸とした新規事業への取り組み

- ・和歌山製油所エリアが、日本有数のSAF製造拠点となるよう、ENEOSはSAFの事業化（28年度以降の運転開始）への取り組みを進めます。
- ・また、他の次世代エネルギーについても、ENEOSは和歌山製油所エリアでの事業化可能性を含めて引き続き検討します。
- ・県、市は、これらの事業化実現に向けて、必要な協力は惜しまず提供します。

2. 企業誘致の促進

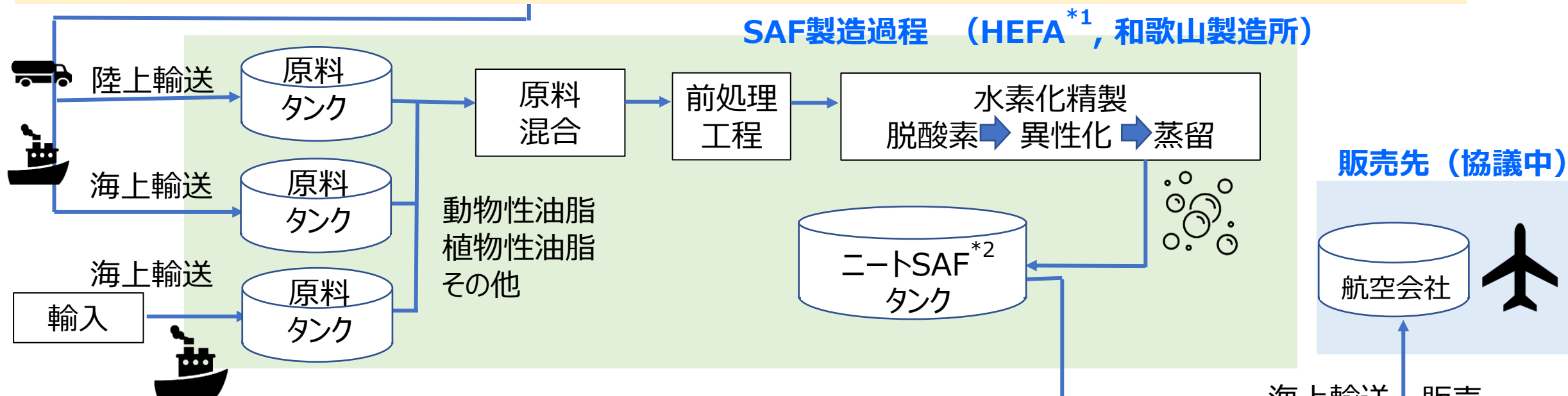
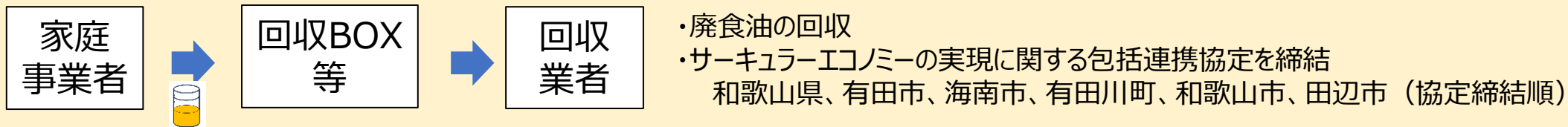
- ・和歌山製油所エリアが、未来環境供給基地として発展するために、GX、カーボンニュートラルに関連する有力な産業、企業を誘致するべく、県、市、ENEOSは互いに協力して誘致活動を進めます。また、県、市は、進出希望企業のニーズを捉えてインフラ整備や優遇制度を検討し、進出を後押しします。

以上の取り組みを通じ、新規事業と企業誘致を着実に進めるとともに、2023年10月の製油所機能停止後の無害化工事・解体撤去工事およびSAF建設工事を安全に進めることで、カーボンニュートラル社会の実現と地域経済の発展に貢献し、雇用の維持・創出を図っていきます。

引き続き、県、市、ENEOSは互いに協力し、状況に応じた内容の見直しや誘致の進捗に資する会議を継続的に実施するなど、鋭意取り組んで参ります。

(別添.1) 和歌山を中心とした SAF サプライチェーン

原料（廃食油）回収過程（和歌山+日本国内）



*1: HEFA
SAFを製造する一つの手法
(水素化処理エステル・脂肪酸)

*2: ニートSAF
従来の石油由来品が混じっていない、
バイオマス等由来のジェット燃料

